

無錫発中国版ユビキタスネットワーク ——「物聯網」ブーム——

【第2回】物聯網の実験都市を目指す無錫市の取り組み



黄振明 (こう・しんめい)

復旦大学国際関係および公共管理学院修了後、NRI上海に入社。現在、NRI上海公共戦略部コンサルタント。専門はサービス産業発展戦略の策定・実行支援、ユビキタスネットワークに関する研究など。

本シリーズでは、無錫発「物聯網」の動向とそのインパクトを分析する。「物聯網実験都市第一号」である無錫市の具体的な計画や今後の展開について紹介しながら、今回の「物聯網」ブームのインパクトと日系企業の商機を解説したい。2回目の今回は、無錫市の最近の取り組みと今後の展開について説明する。

無錫市が第一号として承認

昨年12月に無錫市は、中国の物聯網の実験都市第一号として中央政府から承認された。その正式名称は「無錫国家伝感信息中心」(以下「信息中心」)である。8月に温家宝首相の指示を受けてからわずか半年で「信息中心」に誘致した研究機関や企業が20社を超えた。中国科学院、清華大学など国内外で有名な研究機関が名を連ねる。入居企業もIBMのようなグローバル企業や中国3大通信キャリアのような国内有力企業だ。

また同時に、国家物聯網産業特区などの物聯網に関連する各種の国家級認定資格の申請にも注力。現在認定を受けたのは、国家国際技術合作基地、国家センサーネットワーク工程技術開発センター、国家新型工業モデル基地などだ。

無錫市の今後の展開

「信息中心」の認定が降りて間もなく、それと関連する発展計画も公表された。計画によれば「信息中心」の土地総面積と建築面積はそれぞれ10・8平方キロと860万平米に及び、主な役割は物聯網関連の研究開発や実証実

験、そして産業集積の環境づくりに取り組みむことと、産学官連携を促進することである。将来の発展目標はセンサー技術革新の中核エリア、研究成果の商業化エリア、関連産業の集積エリア、大規模実用化の先行エリア、関連情報サービスの中心エリア、優秀な人材の集結エリアといった「6つのエリア」を実現することとされる。

また、今年の上海万博のタイミングに合わせて物聯網応用博覧会を9月中旬に開催することも検討されている。さらに実験都市の成果をPRするため、「信息中心」の中に「センサーネットワーク応用展示センター」も計画・建設中で、第一期が今年5月1日に一般公開が予定される。そこでの日本企業や日本政府とのコラボレーションが大いに期待されている。

手厚い優遇・支援政策

「信息中心」を成果に結びつけるため、無錫市政府は手厚い支援・優遇策を次々と打ち出している。まずは事業育成プラットフォームの育成である。これまでは中国科学院や江蘇省政府と連携して、「中国物聯網発展センター」「無錫物聯網産業研究院」「無錫納微産業発

展有限公司」の3のプラットフォームを作り上げ、物聯網の技術革新や産業化と関連支援サービスを提供する。次は、国際合作プラットフォームの構築だ。今年2月5日に無錫新区、YRP研究開発推進協会、野村総合研究所は物聯網に関する科学技術と産業育成に関する覚書を締結し、今後の日中間の技術交流や企業間連携の促進に合意した。最後は税制や資金での優遇策の策定である。

無錫市はすでに以下4つの優遇策を公表した。今後もさらに魅力ある優遇策を検討している。

- ①センサーネットワーク関連企業はソフトウェア産業・IC産業と同等な優遇政策を享受できる。
- ②センサーネットワーク企業の関連設備の輸入は設備輸入免税枠を使用する。
- ③センサーネットワーク企業はハイテク企業の優遇税収政策を享受できる。
- ④センサーネットワーク企業は国家、江蘇省、無錫市、無錫新区の政府事業支援資金の申し込みが可能となる。

野村総研(上海)咨询有限公司

■上海市淮海中路1010号嘉華中心29F
☎(021)5403-1122 ㊟(021)5403-9891
■北京市海淀区中関村科学院南路2号
融科資訊中心A座6F
☎(010)6250-9868 ㊟(010)6250-9866
㊟http://www.nri.com.cn